

活動区分	商品開発型	連携先	企業
	地域活性化型		自治体・団

～ 瀬戸内カレッジ ～

活動の様子



周防大島町の課題 観光客数の減少

周防大島町観光客数(観光)の推移

年	観光客数
2013年	117,000
2019年	37,524
2021年	37,322

2021年の宿泊者数は2013年と比べ **↓62%**

8年間で約**7万人**の減少となった。

企画・活動概要

JR西日本・自治体・大学が連携し、若者視点を活用した地域活性化、旅行需要の喚起、学生の成長機会の創出を目指す産官学のプロジェクトです。これまで北陸、南九州、新潟、瀬戸内エリア等で毎年実施してきました。一連の取り組みを通して、参加学生と地元協力者の間で交流が生まれ、地域と連携強化の促進、大学生による若者目線での旅行プランや地元の課題解決に向けたアイデアの提案、および自主的な地元PRを展開する。



取り組む課題

周防大島町はこの10年で観光客数が減少傾向にある。とりわけ、この数年は新型コロナウイルスの影響もあり、その減少幅は大きく、2013年と比較して半数近くまで減少している。こういった問題意識を念頭に、周防大島町として、いかにすれば観光客を誘致できるかを検討することが近々の課題になっている。

課題

01 宿泊施設が少ない	02 交通アクセスが悪い	03 PR方法が悪い
-----------------------	------------------------	----------------------

課題

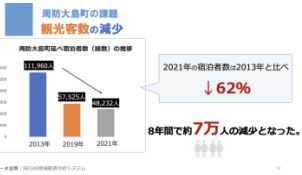
本学(学生)の役割

本学の学生の役割は、周防大島町の観光客が減少している理由を検討し、どうすればより多くの観光客を誘致することができるかをマーケティング的な考え方をを用いて提案することである。そのために、事前学習や現地研修を行い、徹底的に周防大島町を分析している。また、提案が絵に描いた餅にならないように、実現可能性を高めるために周防大島町の担当者と密なコミュニケーションを行っている。



経緯・背景・目的

羽藤ゼミでは山口県周防大島町と連携し、いかに地域の魅力を高め、自治体への観光客を誘致するかを検討した。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

学生の視点から周防大島町が抱える課題を発見し、その解決策を提案した。具体的には、(1) 宿泊施設の不足、(2) 交通アクセスの悪さ、(3) PRの不十分さを課題として設定し、それぞれ(1) 廃校を活用したグランピング施設、(2) レンタルキックボードの活用、(3) バスリを意識したプロモーションを提案した。また、こういった提案を最終成果報告会で対面で発表している。学生にとっては対面での大舞台での発表は初めてであり、自分たちのアイデアをより魅力的に見せるプレゼンを模索した結果、アイデア・プレゼン賞を受賞できた。



指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



商学部
マーケティング学科
教授
羽藤雅彦 (ハトウマサヒコ)
<専門・担当科目等>
消費者行動論

<関係者・企業等>

JR西日本、周防大島町